

Most dictionaries <used by college students> have about 200,000 words, /
↑ 対比 ↓ S ↑ ← 過去分詞の修飾
while most full-length dictionaries have about 300,000 to 600,000.
対比 S' V' O'
But counting the number of words in English is not an easy task.
逆接 S V C

☑ 内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。

1. Most English dictionaries for college students have about twenty thousand words. ()
2. There is an organization that claims to have counted the exact number of English words. ()
3. Many words used in English today have origins other than English. ()

❖ 覚えておきたい表現

■ now that S V ... 「今や…なのだから」

ℓ. 10 : **now that** they are frequently used 「それらの単語は今や頻繁に使われているので」

・ now that S V ... は 2 語で接続詞の役割をし, 「今や…なのだから」という意味を表す。

Ex. **Now that** you are twenty, you have to make your own decisions. 「君はもう 20 歳なのだから, 自分で決めなくてはね。」

■ no longer ~ 「もはや～ない」

ℓ. 11 : words that were used centuries ago but are **no longer** used today 「数世紀前に使われていたが, 今日ではもう使われていない単語」

・ no longer ~ 「もはや～でない」: not ~ any longer も同じ意味を表す。この long は副詞なので, no longer 全体で副詞として機能する。

Ex. I can **no longer** trust that company. 「もうあの会社は信用できない。」

■ What about ~? 「～はどうだろう」

ℓ. 12 : **What about** words that are only used in certain regions of a country? 「一国のある地域でしか使われていない単語はどうだろう。」

・ What about ~? : How about ~? と同じく質問や誘いなどの表現。～には名詞や動名詞がくる。

Ex. **What about** the problems which arose after the war? 「戦後起きた問題はどうか。」

・ that are only used in certain regions of a country は words を修飾する関係代名詞節。only があるので「特定の地域だけで使われている」となるが, only を否定的にとって「特定の地域でしか使われていない」と訳すとわかりやすい。only はこのように文脈によって訳し分けるのがよい。

Ex. There are **only** three people who know what really happened. 「本当は何が起きたのか知る人間は 3 人しかいない。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

① 英単語はいくつあるのかという疑問

・ 大学生の使う辞書に載っている語: 約20万語

◆ ℓ.3 **while** 「一方で: 対比」

・ 標準の長さの辞書に載っている語: 約30万~ 60万語

◆ ℓ.4 **Meanwhile** 「一方で: 対比」

・ GLM という団体の主張: 101万9,729語

② 英単語を数える難しさ

◆ ℓ.7 **But** 「しかし: 逆接」

・ 英単語を数える作業は簡単ではない。

(難しい理由)

◆ ℓ.7 **First of all** 「第1に: 列挙・追加」

・ 多くの英単語は外来語である。(例: sushi, tsunami) → 英単語に含めるか。

・ 今日使われていない古い語については数に入れるか。

・ 方言についてはどうだろうか。

背景知識

● 外来の言葉と英語の結びつき

英語には外来語が多いが, そのことが他言語と比べて英単語の数を多くしている。また, グリム兄弟の弟ヤコブ・グリムによれば, 英語が今のように「権力」を得ているのは, ①言語としての複雑さにつながる語形変化が消滅したこと, ②英語の母体となったドイツ語に代表されるゲルマン語とフランス語に代表されるロマンス語との結びつきによって, 表現の豊かさや厳密さが得られたこと, が挙げられるという。これらを英語の歴史と絡めて見てみよう。

一般に, 英語の歴史は『ベオウルフ』(英文学最古の作品の1つ。英雄ベオウルフを主人公にした叙事詩。8~9世紀頃の作品と推定される)に象徴される古英語(5~12世紀頃), ノルマン征服以後の中英語(12世紀~17世紀頃), イングランド対外進出以降(17世紀以降)の現代英語と, 時代によって3つに分けられる。

古英語の時代には, イングランド北部でヴァイキングの一派との通商があった。その際の必要から主語・動詞・目的語の語順によって文意を明確に伝達するための文法構造ができ, 間接目的語を導く前置詞が発達するなどして名詞の格変化が単純化された。この時点ですでに, 英語はその他のゲルマン語から決別していったのである。

中英語の時期には, フランス語から単語が盛んに取り込まれた。例えば, askと同義のフランス語由来の語 demand などは, 最初は単なる同義語として取り入れられたが, やがて異なった意味が生じていった。

このように, 英語は外来語を取り込むことで同じ意味を表す単語が豊富となり, それらの使い分けによって厳密な表現を行うことが可能になったとされる。産業革命期以降(18世紀後半)にもなると, 外来語を取り込みやすいこうした英語の柔軟さは, 科学技術に関する新語を造語する際に, ギリシア語やラテン語, フランス語などを基にすることにもつながったのである。

【深めたい人に】: メルヴィン・ブラッグ著, 三川基好訳『英語の冒険』(角川書店, 2004年)